

2015年北海道襟裳岬に出現したシャチの行動記録

中岡利泰¹⁾

はじめに

シャチ *Orcinus orca* は世界中の海に生息し、姿形は似ているが、食性や生態が異なり、現在種分化の過程・結果であるといわれている。⁽¹⁾

北海道沿岸では5~11月にかけて、羅臼沖(根室海峡)、釧路沖、北方四島周辺、内浦湾(噴火湾)に滞留することが知られている。⁽¹⁾

また、襟裳岬はゼニガタアザラシ *phoca vitulina stejnegeri* の日本最大の生息地で、最南端の繁殖地である(伊藤ら1986)。

2015年5月、北海道えりも町襟裳岬周辺海域に数日間シャチが滞留した。

ここでは、襟裳岬岩礁周辺でのシャチの行動について報告する。

調査期間と調査地

調査期間は2015年5月20日~26日である。調査地は襟裳岬先端およびその周辺でおこなった(図1.)

調査方法

調査は10倍の双眼鏡、30倍の望遠鏡で確認し、一眼レフカメラ(400mm望遠レンズ)、デジタルビデオカメラを用いて映像を記録した。

また、ゼニガタアザラシ調査員、周辺漁業者から聞いた情報を記録した。

なお、便宜上、海域を7区域に分けた(図1.)。

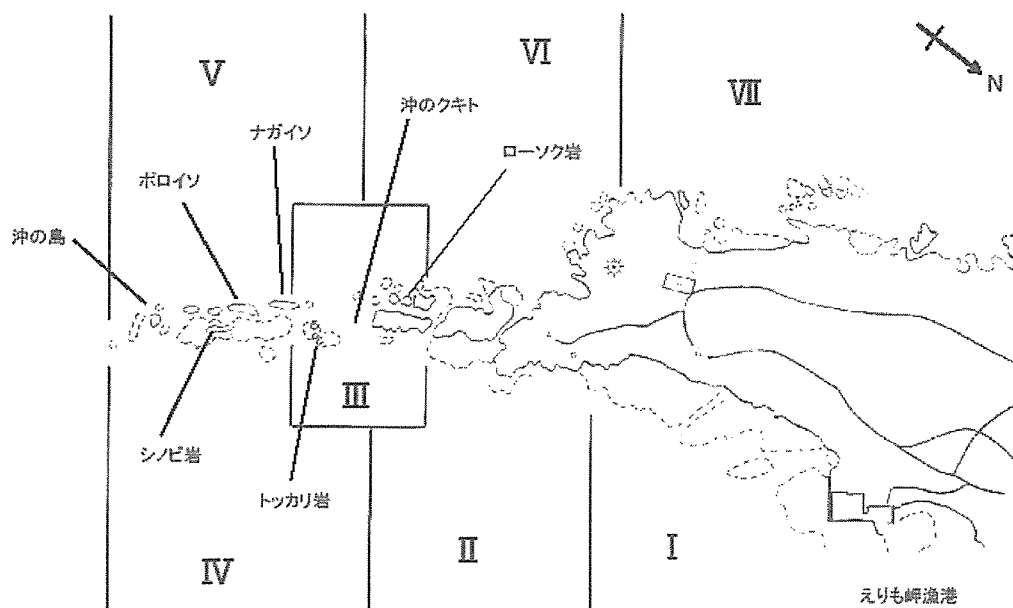


図1. 襟裳岬におけるシャチ観察地点(A~D)と海域I~VIIおよび岩礁名

1) えりも町郷土資料館 〒058-0203 北海道幌泉郡えりも町字新浜 207

nakaoaka-toshiyasu@town.erimo.lg.jp

調査結果

調査期間中、記録したシャチは、写真とビデオの画像を、さかまた組笹森琴絵らが確認し、1群3頭（成獣オス、中型個体、小型個体、図3. 4. 5.）と1群2頭と判断した。

なお、同じ調査期間に増渕ら（2015）が4頭、（3頭の群の他に1頭の大型個体）が確認されているが、当報告では、個体識別ができないため群れを区別しないで報告する。

5月20日（早朝～昼）

4:33 シャチ1群を襟裳岬西側の潮目付近（Vの沖）に確認、同じ場所で小さな潜水、周泳を激しく繰り返す（3頭）（図6.）。

6:06 同所にて、オス成獣前ひれを水面に上げる（pectoral slap）、尾びれを水面に上げる（tail-slap）。腹を水面に、横回り。

6:28 オス成獣腹側を水面に、尾びれで水面をたたく（tail-slap）

7:04 海域IVとVの間の岩礁帯へ移動（3頭）

7:15 海域IVからIIへ移動（3頭）

7:19 海域IIをI方向へ遊泳（3頭）

7:26 海域Iにて、拾いコンブ船と遭遇、中型個体が船の右から左へ移動（図10.）

7:27 オス成獣がコンブ船に接近、その後3頭で海域IIへ移動、7:29 コンブ船が3頭を追跡。

7:31 オス成獣がUターンし、停船しているコンブ船に向かう。コンブ船は戻る方向に舵を切る。オス成獣は中型小型個体の方へ戻る。

7:32 3頭海域IIからIVへ移動

7:40 3頭一番奥の岩礁、沖ノ島の沖を周り、海域Vへ。

7:56 海域IIIに出没（3頭）、岩礁に近づき、うろうろしている様子（図13.）。

8:00 海域III、ロウソク岩の東側、

8:01 海域III、沖のクキトを左に遊泳

8:03 沖のクキトにて中型個体がゼニガタアザラシ pup を吻部で押し付ける（図14.）。

8:05 海域IIIの岩礁の間で中型個体がゼニガタアザラシ pup を吻部で押し付ける。

8:08 海域IIIから海域Vへ移動

（未確認）

8:16 海域VIで確認。

8:22 海域VIで尾びれで水面をたたく（tail-slap）（図12.）

8:25 海域VI、ロウソク岩の西側で、ゼニガタアザラシ pup を追いかける（図7.）。

（未確認）

9:49 3頭海域IIの岩礁近くから岩礁帯に入り込む。ゼニガタアザラシ pup を追いかける。

9:57 オス成獣が先行し、中型小型個体が追いかける。海域IIからI方向へ、3頭大きく周りもどる。

（未確認）

10:00 海域IIで岩礁のすぐ近くで、小さな潜水を頻繁におこなう（3頭）。ウミネコ集まる（図8.）。（以降、未確認）

10:27 海域II～IIIで、ゆっくりと潜水を繰り返す。逆立ち。～10:37 オス成獣バックで泳ぐ、ウミネコつく、3頭で水面で水平に周り泳ぐ。

（未確認）

10:49 海域IVに3頭

10:54 岩礁伝いに海域IV～IIへ移動

11:03 海域IIでUターンし、海域IIIへ

11:04 海域III、沖のクキトに出入り

11:08 海域IVの岩礁帯に入り込む、かなり活動的に潜る。カモメ類が付く。

11:14～30 海域IVの岩礁帯で潜りを繰り返す。（未確認）

11:46～56 海域IVの岩礁帯に入り込む。（未確認）

12:20 海域IV・IIIで岩礁帯に接近

12:25 沖のクキトから海域IIの通称中のクキト東へ移動。オス成獣が激しい水しぶき、勢いよく泳ぐ。中型個体がゼニガタアザラシ pup をもてあそぶ、小型個体が付いている。小型個体が pup をもてあそんでいるところに、オス成獣中型個体に戻り、pup をもてあそぶ。

12:35 pup が水面を泳いで海域IIの沖へ逃げ

る。約2分後、距離を置いていたシャチ（おそらくオス成獣）がpupの下方からpupを襲う、オス成獣、中型小型個体でpupを追う。水中に持ち込んだり、pupの後ろを追いかけたり。オス成獣が逃げるpupを背面泳ぎしたりして、鼻先で押し付ける。

一度離れて追いかけて、水中に持ち込む行動を繰り返す。

（未確認）

12:51 海域Ⅳ、岩礁から離れた場所で、ゼニガタアザラシpupを3頭で追いかけて、水中に沈める。

（未確認）

13:03 ツブ漁の漁船1艘がえりも岬漁港に戻る（海域Ⅳ～Ⅱの沖合い）。オス成獣、水面より頭を出す（spy-hop）（図9.）。

（未確認）

5月20日午後

14:50 海域Ⅲ、沖のクキトに3頭

14:56 海域Ⅵ、ロウソク岩の西側3頭、激しく潜っている様子～15:15

15:26 海域Ⅳロウソク西側から海域Ⅶへ移動

15:27 海域Ⅶ、観察地点[C]、(図1.の[P]) すぐ下の浜(小さな湾になっている)近くにオス成獣。

15:48 海域Ⅶを移動、サケ定置網(丸協東洋)の垣網の陸側を東洋地区方面に泳ぎ、見えなくなる。

（未確認）

5月20日(夕方)

16:50 海域Ⅴの岩礁帯ナガイソの東側の狭い小湾で潜る。3頭

17:05 海域Ⅳに3頭

17:08 再び海域Ⅴの岩礁帯ナガイソの東側の狭い小湾に入る。

17:11 海域ⅢとⅣの間(トッカリ岩の沖側)を海域Ⅳに抜け、すぐに通称シノビ岩近くの岩礁帯に入る、3頭。

17:14 トッカリ岩の東奥から、海域Ⅲ沖のクキトへ抜ける

17:16 海域Ⅲ、沖のクキトを東に進み、少し沖

に出る。

17:20 海域Ⅲ、トッカリ岩の東奥に出る。ゼニガタアザラシは、浅瀬で多数が泳いでいる。

17:22 3頭、海域Ⅲ、沖のクキトから海域Ⅳへ移動、岩礁帯そばを通り海域Ⅲへ戻る。

17:27 その後、海域Ⅱ方面へ向かい、17:31 沖のクキトに入る。

17:36 3頭、海域Ⅴの岩礁、ポロイソとナガイソの間に出没、その後岩礁帯西へ出て、ポロイソの奥の岩礁帯に入り出る。

17:49～53 3頭、海域Ⅲ沖のクキト

18:02 海域Ⅴ、ポロイソの西に出没。

18:07 海域Ⅴ～沖ノ島沖を通過、海域Ⅳへ?

（未確認）

5月21日

14:59 海域Ⅳ、ロウソク岩の西側で、水面で水平に周り泳ぐ、3頭、～15:14

（未確認）

5月22日

6:30 海域Ⅴ、沖のクキトから岩礁帯沿いに岩礁先端部方面へ?

（未確認）

6:36 海域Ⅵ、ロウソク岩西側に出没

（未確認）

8:20 海域Ⅵ、ロウソク岩西側、オス成獣が尾びれで水面をたたく(tail-slap)(図11.)。

8:27 観察中止。

8:30 海域Ⅶ、3頭。岩礁より少し沖で、回ったり潜ったり盛んな活動、オス成獣が尾びれで水面をたたく(tail-slap)。オオセグロカモメが集まる。

8:50 海域Ⅶ、岩礁近くを地口に接近、襟裳岬駐車場(図1.の[P])の真下の浜をオス成獣が、岩をなめるように泳ぎ海域Ⅵ方面へ。

中型小型個体は海域ⅦとⅥの境でオス成獣と合流。

8:53 3頭見えなくなる

（未確認）

5月24日

5:00～5:40 未確認、その後未調査

5月25日

～6:20 ガスのため観察できない。

7:20 海域Ⅵ、3頭、海域Ⅶ方面から移動し、海域Ⅵロウソク岩の西側へ近づく。コンブひろいの船に接近するも、船には気を使っている様子なし。船の近くで潜水を繰り返す。7:28 場所を移動、海域Ⅴ方面へ？

(未調査)

16:11 3頭、えりも岬漁港方面から、海域Ⅰから岩礁のすぐ近くを海域Ⅱ～Ⅳへ移動。漁業者の家族が車10台で追っかけ。海域Ⅳ～岩礁帯先端の沖ノ島を周り、海域Ⅴ～Ⅵ～Ⅶへ移動。

16:31 海域Ⅱに戻り、岩礁近くを周り、海域Ⅲ方面へ

(未確認)

18:21 海域Ⅲ、オス成獣が尾びれで水面をたたき (tail-slap) 潜る。オス成獣は逆立ちを繰り返す。中型小型個体も勢いよく潜る。ウミネコがつく。

18:33 3頭、沖のクキトへ入る？

(未確認)

18:48 観察地点C、襟裳岬駐車場Pの西側に3頭、東洋方面へ移動遊泳し見えなくなる。

5月26日

5:00～7:11 未確認

18:00～ ガス 観察できず 東風 波Ⅴ

5月27日 雨、ガスなし、観察せず。

5月28日 14:45～15:15 岬先端 未確認

5月28日 夕方 ガス 観察できず

5月29日 朝 ガス 観察できず

聞き取り調査

1) シャチの出現について

・シャチは5月8日か9日から出現している (情報提供者不明)。

・5月11日頃からシャチが出現している。海が荒れていないところに出没している。岩礁の周りをまわっている (増淵隆仁氏)。

・5月19日は一日中岬周辺にいた。沖の島の奥

を巡っていた。岩礁東側へアザラシを追いかけて近くまで来た (増淵隆仁氏)。

・5月22日 (北～北東の風、風Ⅴ、波Ⅴ) 三谷曜子氏の観察では、4頭の群れを確認した。増淵隆仁氏はシャチ確認初日は4頭の群れ。

・5月23日は海域Ⅶにいた (南誠悟氏)。

・5月24日ツブ漁の沖合にもシャチがいる、別の群れだろう (漁業者)。

・5月25日昼、岬漁港外にシャチ (駿河辰哉氏) 目撃。

・5月27日「風の館」よりシャチ3頭確認されている。時間不明。(蔵本洋介氏より)

・5月27日えりも町内にて「様似方面に移動した。」「様似浦河の定置網から4頭と5頭の2群が確認されている様子」(facebookを見た漁業者から)。

・5月29日、昼ガスはれるもシャチ未確認 (増淵隆仁氏)

・6月2日 岬にシャチがいた (漁業者情報)

・6月2日朝、ここ5日位、シャチは確認されていない (増淵隆仁氏)

・6月9日には丸協東洋の近くにもシャチがいた (石川慎也氏)。

・6月9日聞「シャチは百人浜にいる」(金丸重幸氏から聞いた南誠悟氏より)

・6月14日 金丸重幸さん情報 「しばらくシャチいね～な～」(金丸重幸氏)

・岬定置の船 (襟裳興産) が広尾から船を回してくるとき (5月中旬) に、シャチがいた。

・去年は沖に10頭でいた。7月ごろ。シーカヤックから見た。(柳田勝彦)

2) シャチとゼニガタアザラシとの関係

・石川慎也氏もシャチが pup を食べたところを目撃している。

・シャチが出現して間もないころ、「風の館」のすぐ下でシャチがアザラシを食べたのを目撃。

・シャチが襟裳岬に出現してから、アザラシが海域Ⅰのえりも観光館の下の浜にいる、日ごろ

いないところ（漁業者）。

・5月25日の朝には、大下・下の浜（海域Ⅰの北東側）にアザラシがたくさんいた（漁業者）。

・5月25日大下でシャチがアザラシを食べていた（漁業者情報：角鹿さんから聞いた石川慎也氏）。

・6月2日笛舞で頭のないゼニガタ pup の死体漂着、シャチに切られた可能性もあるが、詳細は不明。（増渕隆仁氏）

3) その他の情報

・5月27日 えりも町漁業協同組合から「シャチ注意」の回覧まわる。

・6月9日ごろ、東洋の丸和（協和）のサケ定置の運動場にシャチ小が入る、翌日垣網に大きな穴が開いていた（蔵本洋介氏）。

・6月11日羅臼に少しずつシャチが戻ってきているとのこと（三谷曜子氏）。

まとめ

1) シャチの出現期間について

海氷は2014年4月24日現在、国後島と択捉島の間を南下し、色丹島～根室半島南沖～厚岸南沖の太平洋に流出していた（図2.）。同年5月6日まで、根室海峡を閉ざしていたが、5月7日には海氷は北海道沿岸から消えている（第一管区海上保安本部海氷情報センターの海氷速報）。

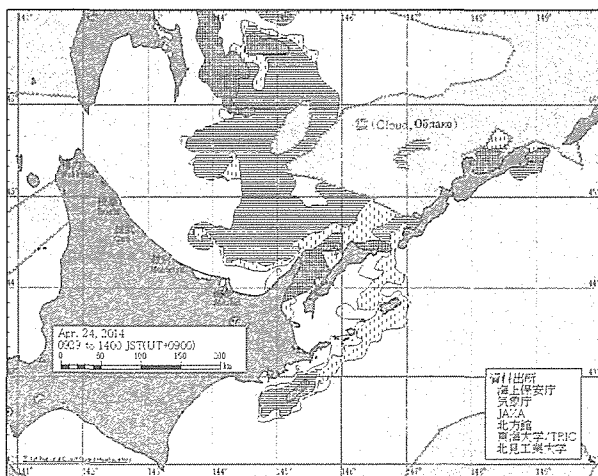


図2. 2015年4月24日、北海道周辺の海氷状況（第一管区海上保安本部海氷情報センター海氷速報）。

聞き取り調査から襟裳岬周辺にシャチは2014年5月8日頃に出現し、6月9日頃に観察できなくなった。海氷の太平洋へ流出のため（図2.）、太平洋から根室海峡に移動できず、太平洋沿岸に分散したものと推測できた。5月6日海氷が消失してからも、襟裳岬周辺海域で6月9日まで確認されていることから、1ヶ月程度襟裳岬を挟む北海道太平洋沿岸に数群が滞在したと考えられた。

2) シャチによるゼニガタアザラシの捕食について

聞き取り調査では、「シャチがゼニガタアザラシを食べた」との証言が数例あるが、本調査では、ゼニガタアザラシをシャチが鼻先で押し込む、水中に持ち込むなどの行動が確認されたが、増渕ら（2105）同様、捕食する瞬間を直接観察することはなかった。聞き取り調査での「食べた」という証言は、鼻先で追う、水中に持ち込むなどの行動のみの可能性も考えられる。

3) 行動について

岩礁から離れた位置で、潜水や水面での周泳の際には、オオセグロカモメなどのカモメ類が集まることが観察されたことから、魚類捕食行動の可能性があった。

岩礁への繰り返しの接近や、ゼニガタアザラシのポップを執拗に追跡するなどの行動は、ポップを捕食する目的の行動か、それ以外の目的があるのか、今回の観察では結論できない。

襟裳岬に出現した1群3頭は、魚食性のレジデントか、哺乳類食のトランジェントか、羅臼で確認されたアザラシ類とイカを捕食する珍しいタイプか、それ以外のタイプ⁽¹⁾か判断する情報を得ることができなかった。

今後、シャチの襟裳岬への再来、個体識別可能な詳細な調査が期待される。

謝辞

本研究に際し、東京農業大学生物産業学部アクアバイオ学科増淵隆仁氏、さかまた組笹森琴絵氏ら、NPO 法人北の海の動物センター小林万里氏、北海道大学北方生物圏フィールド科学センター三谷曜子氏には助言をいただいた。ここに感謝の意を表す。

ジュアル図鑑. pp191.誠文堂新光社

伊藤徹魯・宿野部猛 (1986) ゼニガタアザラシの生息数と生息状況. 17-58.「ゼニガタアザラシの生態と保護」 pp418.東海大学出版会.
増淵隆二・三浦由佳・小林万里 (2015) 北海道襟裳岬におけるシャチ出現に伴うゼニガタアザラシの個体数・上陸行動変化. えりも研究 12.21-26.

引用文献

(1) 水口博也編著 (2015)「シャチ 生態ビ

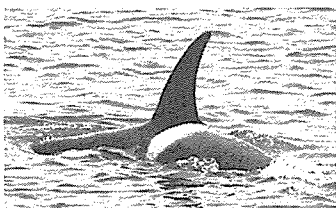


図3. オス成獣 5月20日10:12

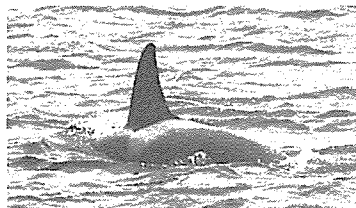


図4. 中型個体 5月20日10:13

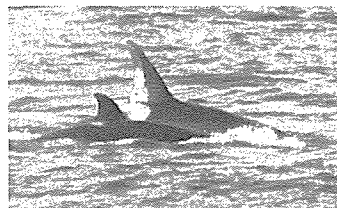


図5. 小型個体(手前) 5月20日 5:16



図6. 水面で周泳 5月20日 4:49



図7. パップを追跡する. 左から小型個体・中型個体・オス成獣 5月20日 8:25



図8. オス成獣につくカモメ類 5月20日 5:30



図9. 漁船を偵察する 5月20日13:03

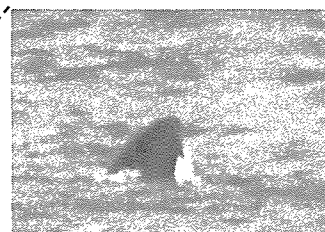


図9. 拡大

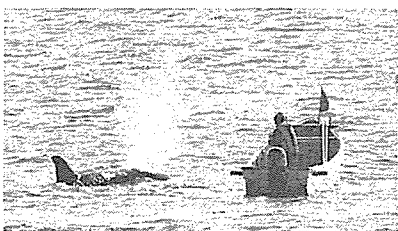


図10. コンブ磯船に接近 5月20日 7:27



図11. 尾びれたたき 5月22日 8:21



図12. 5月20日 8:22尾びれたたき



図13. 岩礁帯に入った3頭 5月20日 7:57



図14. パップを追跡 5月20日 8:03